

## 韓国語の統一授業についての報告

鄭 芝淑

キーワード：韓国語、統一授業

### 概要

本稿は2017年度に開始され2019年度に本格化した鹿児島大学の韓国語統一授業の報告である。外国語の統一授業は次の三つの側面を持っている。

1. 到達目標の統一
2. 学習過程の統一
3. 成績評価の統一

これらの側面には、それぞれ実施上の問題点があり、本学の韓国語の統一授業の試みはそれに対する解決法の一例である。

統一授業を行うには、時間的にも精神的にも負担が伴う。しかし、それは教授技術の向上や教員相互の連帯意識の増進という副産物があり、それがまた学生のためにもなるだろう。さらに、それは我々の学生に対する外国語教員としての責任感の表明にもなると思われる。

### I. 本学の初級韓国語の授業

本学では、2017年度から韓国語の統一授業を行っている。最初は同一の教科書を用いるだけという簡単に手掛けられる形から始めたのであるが、2019年度の途中から、当初やりたいと思っていたことが一応すべて実行に移すことができるようになり、形式が整うことになった。途中からというのは、年度が始まる前に計画していたことではなく、「交代授業」という新しい試みを始めたことをきっかけにして、最終目標としていたことまで実施するようになったためである。この機会に、2019年度の韓国語の統一授業の実施状況を簡単に紹介し、統一授業を行うことの意義や問題点等を整理しておきたい。

統一授業を行っているのは資料1の通り、法文学部と教育学部の1年次生を対象に選択必修科目として開講されている「初級韓国語Ⅰ」（1期）と「初級韓国語Ⅱ」（2期）である。これらは週2回火曜1限と木曜1限に開講される授業であり、クラス数は「初級韓国語Ⅰ」が4クラス、「初級韓国語Ⅱ」が3クラスとなっている。2019年度の開講状況は次の資料2の通りであった。

資料1：教養教育科目（教養基礎科目）【選択必修科目】

履修学年	1年次		必修単位
	1期	2期	
履修期	科目名（単位数）		
学部等	科目名（単位数）		
法文学部	初級Ⅰ（2）	初級Ⅱ（2）	4
教育学部（中等教育コース英語科）	初級Ⅰ（2）	初級Ⅱ（2）	4
教育学部（上記を除くすべて）	初級Ⅰ（2）	初級Ⅱ（②）	2

『2019年度入学生共通教育履修案内』（2019）より

## 資料2：2019年度「初級韓国語」のクラス編成

## 前期「初級韓国語Ⅰ」

担当教員	対象学部	受講生数
河昇玉	法文1・2 A, 教育3	45名
姜美貞	法文2 B, 教育4 (保体を除く)	46名
鄭芝淑	法文3, 教育2・4 (保体)	63名
李賢雄	教育1	33名

## 後期「初級韓国語Ⅱ」

担当教員	対象学部	受講生数
河昇玉	法文1・2 A, 教育3	32名
姜美貞	法文2 B, 教育4 (保体を除く), 教育1	37名
鄭芝淑	法文3, 教育2・4 (保体)	45名

## II. 統一授業

一口に統一授業と言っても様々な側面がある。何を統一するかの観点により、次の3つの側面から考えることができる。

- ① 到達目標の統一
- ② 学習過程の統一
- ③ 成績評価の統一

これらのどの側面をどの程度統一するかに応じて、統一授業の形態は、ごく簡単に実行できるものから綿密な計画を要するものまで、さまざまに変わってくる。

## III. 到達目標の統一

到達目標というのは、履修者が授業を通じてどのような知識と能力を付けることができるかを具体的に示すことである。この目標は、教科書を選ぶことによってある程度達成することができる。選んだ教科書のどこまでをやるかを決めてしまえば、それが到達目標ということになる。あるいは、学習目標とする項目を羅列するだけでも到達目標を示すことはできる。

授業計画を立てるに当たって、到達目標を明確に設定することは出発点であり、極めて重要なことである。したがって、授業シラバスでは到達目標は重要な項目となっている。しかしながら、稿者のこれまでの授業体験によると、到達目標を設定することの重要さがあまり意識されていないように思われる。極端な言い方をすれば、教師がいて、学生がいて、教科書があって、教室や黒板があれば授業は成立する、と考えているのではないかと思われることがよくある。

ある意味では確かにその通りであり、期限を区切った学習計画を立てる必要のない外国語学習の場では、それで十分である。しかし、大学での外国語教育課程のようにきちんとした学習計画があるべき場合には、到達目標を明確にすることが、重要な出発点であることは言うまでもない。

韓国語の統一授業でも、到達目標を統一することから出発している。その手段として、統一教科書を選んでいる。採用している教科書は、稿者が共著者の一人として作成した次のものである。

『韓国語の基礎Ⅰ』 飯田秀敏・鄭芝淑・飯田桃子 共著、朝日出版社、2016

『韓国語の基礎Ⅱ』 飯田秀敏・鄭芝淑・宮本桃子 共著、朝日出版社、2017

このテキストは、韓国語の学習段階を一般に行われている初級・中級・上級のように区分するのではなく、基礎学習と応用学習に分けて、基礎を学習するための教材である。ただし、このテキストは、週2回ずつ2年間、120回の授業を想定して作られているため、1年間60回の授業ではすべてを消化することはできない。そのため、韓国語の文法で最も重要な活用の全体像がわかる『韓国語の基礎II』の第3課あたりを最低の到達目標として授業計画を立てている。残りは、選択科目の「中級韓国語」で学習することになっている。

#### IV. 学習過程の統一

学習過程の統一は、統一授業を実施する上で最も難しい課題である。統一シラバスを作成し、授業回ごとの学習内容を明確に示しておくことで、ある程度この目的を達成することができる。本学の韓国語の授業でも統一授業を始めた当初から、統一シラバスを用いてきた。

2019年度「初級韓国語」のシラバスの授業計画の部分は、資料3の通りであった。

資料3：2019年度「初級韓国語」の授業計画

#### 前期「初級韓国語Ⅰ」

授業回	学習内容
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価基準など）、ハングルの構造、挨拶表現（人に出会ったとき）
第2回	母音字母、挨拶表現（初対面のとき）
第3回	子音字母、挨拶表現（久しぶりに会ったとき）
第4回	平音・激音・濃音、カギヤ表、有声化、挨拶表現（人と別れるとき）
第5回	複合中声、終声（パッチム）、簡単な挨拶（お礼とその返答）
第6回	連音化、簡単な挨拶（お詫びとその返答）
第7回	仮名のハングル表記、音声変化、簡単な挨拶（お祝い）
第8回	文字と発音のまとめ
第9回	簡単な挨拶（その1）
第10回	簡単な挨拶（その2）
第11回	第1課（今、韓国に住んでいます）の本文解説と朗読練習、文法解説：ハムニダ体平叙形、助詞、一人称代名詞、句読法、分ち書きなど
第12回	第1課（今、韓国に住んでいます）の文法解説（つづき）、応用練習
第13回	第2課（趣味は何ですか）の本文解説と朗読練習、文法解説：ハムニダ体疑問形、疑問詞など
第14回	第2課（趣味は何ですか）の文法解説（つづき）、応用練習
第15回	会話練習
第16回	第3課（弟もいますか）の本文解説と朗読練習、文法解説：ヘヨ体（指定詞・存在詞）、指示詞など
第17回	第3課（弟もいますか）の文法解説（つづき）、応用練習
第18回	会話練習
第19回	第4課（勉強よくできますか。）の本文対話解説と朗読練習、文法解説：ハダ用言（ハダ動詞・ハダ形容詞）、用言の活用と語基、活用語尾、助詞の省略など
第20回	第4課（勉強よくできますか）の文法解説（つづき）、応用練習
第21回	第5課（誕生日はいつですか）の本文対話解説と朗読練習、文法解説：漢数詞、日付の表し方、ヘヨ体（子音語幹、L語幹）、文末イントネーション、短形否定、助詞の連続、丁寧の語尾など
第22回	第5課（誕生日はいつですか）の文法解説（つづき）、応用練習
第23回	漢数詞の練習、会話練習

第24回	第6課（家族と一緒に故郷に行きます）の本文対話解説と朗読練習、文法解説：固有数詞、時刻・時間、へヨ体の作り方（母音語幹）
第25回	第6課（家族と一緒に故郷に行きます）の文法解説（つづき）、応用練習
第26回	固有数詞の練習、会話練習
第27回	第7課（お腹がすいていませんか）の本文対話解説と朗読練習、文法解説：ウ語幹用言、長形否定、意志・推量語幹、ハムニダ体勧誘形、会話体における省略・縮約など
第28回	第7課（お腹がすいていませんか）の文法解説（つづき）、応用練習
第29回	会話練習
第30回	今学期の学習のまとめ（活用形を中心に）
第31回	期末試験

## 後期「初級韓国語II」

授業回	学習内容
第1回	前期の復習
第2回	前期の復習
第3回	敬語表現、不能表現
第4回	願望表現、受益表現、用言の副詞形
第5回	応用練習
第6回	会話練習
第7回	第III語基の副詞的用法、過去形
第8回	詠嘆形、試行表現
第9回	応用練習
第10回	会話練習
第11回	変則活用1（h変則・p変則）
第12回	現在連体形、緩叙形、禁止表現など
第13回	応用練習
第14回	会話練習
第15回	変則活用2（t変則・s変則）
第16回	未来連体形、可能表現、意志・推量表現
第17回	許可表現、疑問詞の不定用法など、応用練習
第18回	会話練習
第19回	変則活用3、過去連体形
第20回	回想連体形、経験表現など
第21回	応用練習
第22回	会話練習
第23回	進行・継続表現、結果表現、詠嘆形
第24回	意志形、約束手形、推測表現、完了表現、義務表現など
第25回	応用練習
第26回	会話練習
第27回	ぞんざい体（パンマル体）
第28回	推量疑問形、反語的推量形、推測表現、目的形など
第29回	応用練習
第30回	今学期の学習のまとめ
第31回	期末試験

同じシラバスに従っていても、教員によって授業の進め方に微妙な違いがあり、また不測の事態が生じたりして、進度の差が生じる。その場合には進度調整をはからなければならないことになる。2019年度前期の授業でもさまざまな事情で一部のクラスに遅れが生じた。遅れが積み重なると、統一授業の場合どこかで進度の調整をする必要がある。前期のシラバスでは第7課まで進む予定であったが、遅れの積み重ねによりそれが不可能であることが比較的早い時期に分かったため、前期は第6課までとすることに予定を変更した。その分、後期の計画に先送りされることになったが、後期の授業計画にはもともと余裕を持たせてあったので、最終的な到達目標の達成には影響はなかった。

授業は基本的にはテキストに従って進めるが、そのほかに学習を助けるための2種類の副教材を用いている。1つは、学習内容の理解度をチェックするための10分程度の小テストで、これは毎回の授業で行い、その場で回答し自己採点する。もう1つは、発展学習のための提出課題である。これも毎回配布される。もちろん、どちらの教材も統一されており、すべてのクラスで使っている。これらの副教材の利用の仕方にも教員ごとに違いが生じたので、今後検討すべき課題である。

## V. 交代授業

学習過程を統一化するために最も効果的な方法の一つは、自分の担当以外のクラスの授業を参照することであるが、本学のカリキュラムでは、4名の統一クラス担当教員全員が同じ時間帯で授業を行うことになっているため、それができない。その代替策として、2019年度に初めて試みたのが「交代授業」である。つまり、自分の担当以外のクラスを教えるという試みである。

資料4：交代授業（2019年度前期：4クラス、後期：3クラス）

### 前期

授業回	日付	担当教員
13回	5/28 (火)	河昇玉 ⇄ 李賢雄    姜美貞 ⇄ 鄭芝淑
14回	5/30 (木)	
20回	6/25 (火)	河昇玉 ⇄ 姜美貞    李賢雄 ⇄ 鄭芝淑
21回	6/27 (木)	
25回	7/11 (木)	河昇玉 ⇄ 鄭芝淑    姜美貞 ⇄ 李賢雄

### 後期

授業回	日付	担当教員
9回	11/17 (木)	河昇玉 → 姜美貞
		姜美貞 → 鄭芝淑
		鄭芝淑 → 河昇玉
17回	12/5 (木)	河昇玉 → 鄭芝淑
18回	12/10 (火)	姜美貞 → 河昇玉
		鄭芝淑 → 姜美貞

前期のクラス数は4クラスであるので、他のクラスを2回ずつ交代で担当することとし、最初の予定は6回であった。24回目の授業（7月9日）にも交代授業を行う予定であったが、23回目の授業が大雨で休講となったため、実施を見合わせ、都合5回の実施となった。後期は、3クラスであるから、2回ずつ他の授業を交代するとして、4回の交代授業を予定していたが、1回は教員の一人が休講せざるを得ないことになったため、3回だけ実施した。

交代授業を予定であることは、2019年度の授業が始まる前に趣旨を話して了解してもらっていたのであるが、5月になって具体的にその日程が決まると、実施についてかなり抵抗があった。

心理的負担がかなり大きかったようである。統一授業であるから、誰がどのクラスを教えても不都合はないはずであり、他のクラスの雰囲気を知ることも重要なことであるということを再度説明して、最終的に了解を得て実施に踏み切った。

心理的負担の大きさを考えると、交代授業の試みは前期限りになるかもしれないと考えないでもなかったが、いざ、ふたを開けてみると予期しなかった効果があった。担当教員全員で意見交換をする機会が急に増えた。学科内FDが急に活発になったのである。

統一授業を始めてから、授業進捗の確認や副教材の受け渡しなどで、個々の先生方と連絡を密にする必要はあったが、全員そろって意見交換をするのは年度初めと年度の終わりぐらいであった。ところが、交代授業をきっかけに、その機会がいきなり増えた。それは資料5の通りである。

資料5：統一授業実施のための打ち合わせ

前期

	日付	時間	場所	打合せ内容
1	5月14日(火)	10時50分～11時20分	講師室	交代授業実施日および授業進捗の確認、交代授業の意義についての意見交換。
2	5月21日(火)	10時30分～11時30分	鄭研究室	交代ペア毎に情報交換（名簿および進捗の確認、小テスト、提出課題、宿題など）。
3	5月24日(金)	17時30分～19時10分	鄭研究室	交代授業や期末試験の統一化および成績評価についての意見交換。
4	5月28日(火)	10時30分～11時10分	鄭研究室	1回目交代授業の後、実施状況の報告と意見交換。
5	5月30日(木)	10時30分～11時10分	鄭研究室	2回目交代授業の後、実施状況の報告と意見交換。
6	6月4日(火)	10時30分～12時30分	鄭研究室	予備日に行われた河先生の補講を教員3名全員が参観した後、勉強会を実施。第4課の文法説明について具体的にそれぞれが模擬授業を行う。
7	6月17日(月)	15時～17時	鄭研究室	第4課の文法説明と練習問題のやり方について勉強会。
8	6月18日(火)	10時30分～11時30分	鄭研究室	交代ペア毎に情報交換（名簿および進捗の確認、小テスト、提出課題、宿題など）。
9	6月20日(木)	10時30分～11時30分	鄭研究室	交代ペア毎に情報交換（名簿および進捗の確認、小テスト、提出課題、宿題など）。
10	6月25日(火)	10時30分～11時10分	鄭研究室	3回目交代授業の後、実施状況の報告と意見交換。
11	6月27日(木)	10時30分～11時10分	鄭研究室	4回目交代授業の後、実施状況の報告と意見交換。
12	7月1日(月)	13時30分～16時10分	鄭研究室	勉強会を実施。第6課の文法説明について具体的にそれぞれが模擬授業を行う。
13	7月1日(月)	17時10分～18時05分	鄭研究室	模擬授業の結果に関して意見交換
14	7月9日(木)	10時30分～11時30分	鄭研究室	交代ペア毎に情報交換（名簿および進捗の確認、小テスト、提出課題、宿題など）。
15	7月11日(木)	10時30分～11時10分	鄭研究室	5回目交代授業の後、実施状況の報告と意見交換。
16	7月16日(火)	10時30分～12時00分	鄭研究室	期末試験（筆記試験）について意見交換。
17	8月5日(月)	12時30分～13時00分 15時30分～16時00分	鄭研究室	期末試験問題の最終チェック。
18	8月6日(火)	8時00分～8時30分	鄭研究室	期末試験（筆記試験）の事前確認。

19	8月6日(火)	10時30分～ 11時00分	鄭研究室	期末試験実施後、採点基準等について意見交換。
20	8月14日(水)	10時00分～ 12時00分	鄭研究室	成績評価等について意見交換。

## 後期

	日付	時間	場所	打合せ内容
1	9月26日(木)	10時30分～ 12時00分	講師室	交代授業実施日および授業進捗の確認、交代授業の意義についての意見交換。
2	11月1日(金)	16時30分～ 18時00分	鄭研究室	交代ペア毎に情報交換(名簿および進捗の確認、小テスト、提出課題、宿題など)。
3	11月24日(金)	10時30分～ 11時00分	鄭研究室	1回目交代授業の後、実施状況の報告と意見交換。
4	11月20日(木)	14時30分～ 16時00分	鄭研究室	予備日に行われた姜先生の補講を鄭が参観。
5	12月3日(火)	10時30分～ 11時40分	鄭研究室	交代授業実施日および授業進捗の確認。
6	12月10日(火)	10時30分～ 11時10分	鄭研究室	2、3回目交代授業の後、実施状況の報告と意見交換。
7	1月28日(火)	11時00分～ 11時40分	鄭研究室	期末試験(筆記試験)について意見交換。
8	2月4日(火)	8時20分～ 8時40分	鄭研究室	期末試験(筆記試験)の事前確認。
9	2月4日(火)	10時30分～ 13時30分	鄭研究室	期末試験実施後、採点基準等について意見交換。相談をしながら採点。
10	2月6日(木)	10時00分～ 11時00分	鄭研究室	成績評価等について意見交換。

これを見ると、前期においては5月以降、ほとんど毎週のように学科内FDを行っている。その内容を見ると、学習過程の統一に向けて意見交換が行われただけではなく、後に述べる第3の統一目標である成績評価の統一に向けての議論と作業も行っている。

また、勉強会や模擬授業も数回にわたって行われている。これは、文法説明について行なったとなっているが、どれも用言の活用に関するものであった。この問題をめぐって勉強会や模擬授業を行う必要が生じた理由について少し説明しておきたい。韓国語は、文章の組み立て方が日本語とほとんど同じであるので、日本語話者が韓国語を学ぶ場合、基礎文法の段階で文章の組み立て方、語順について、難しいと感じることはあまりない。日本語話者が難しいと感じて、時間をかけてクリアしなければならない文法事項は用言の活用である。文章中に用言が現れる場合、すべて、意味と用法に応じた活用形になるのであるが、その活用形の作り方と使い方を覚えることは、簡単なことではない。韓国語の基礎文法は用言の活用に尽きるといってもいいほどである。

その活用形の作り方について、日本における韓国語教育では、「語幹文法」と「語基文法」と呼ばれる2つの異なる説明方法が競合している。どちらの方法を使っても結果は同じことなのであるが、学習効率の観点からすると明らかに「語基文法」の方が優れている(と稿者は考えている)。説明が整然としていて無駄が少ない「スマート」で「クール」な方法であるからである。

ところが「語基文法」が「語幹文法」に劣る点が1つある。それが少数派であるという点である。「語基文法」は日本で開発された説明方法であり、歴史が浅いためまだ普及の途上にある方法である。何よりも重要なことは、韓国での国語教育や外国人向けの韓国語教育では「語基文法」は採用されていない。韓国ではもっぱら「語幹文法」で説明しており、韓国人にとって「語基文法」はなじみのない方法でしかない。日本で出版される教科書も大多数は「語幹文法」を採用している。

特に、韓国人が教える場合には、「語幹文法」で書かれたものを採用するのが普通である。

本学で統一テキストとして使っている『韓国語の基礎Ⅰ』と『韓国語の基礎Ⅱ』は、学習効率の良さのため少数派である「語基文法」を採用したテキストである。なじみのない方法で説明しなければならなくなると、母語である韓国語の活用の説明が、まるで外国語の文法の説明のように感じられることがある。慣れてしまえば何でもないことで、「語基文法」の方が説明しやすいことが実感できるのであるが、慣れないうちは、説明を聞く学生より、説明をする教師の方が難しいと感じることがある。先入観なしに理解するより、先入観に影響されながら理解することの方が難しいものである。

本学の統一授業を担当してもらっている非常勤の先生方も、同じ問題を抱えていたということで、それが、用言の活用に関して勉強会や模擬授業を行うことになった理由である。

用言の活用のほかにも、担当者全員で議論すべき問題がいろいろある。交代授業をきっかけに勉強会をする機運が生じたのであるが、今後も随時そのような機会を持ちたいと思っている。

学生に交代授業の予告をするときに、いろいろな先生から教わることは刺激になっていいことだと、その意義を説明したのであるが、学生の側にも戸惑いはあったようである。授業アンケートの記述式回答の中に「交代授業はいらない」、という否定的な意見も散見された。

学生の立場から見て、交代授業がどのような効果があるかについては、今後検討しなければならない課題となっている。しかし、交代授業をきっかけに担当教員の間で意見交換、情報交換が活発に行なわれるようになった。また、教授法に関する勉強会も行われるようになった。このようなことの積み重ねによって、授業のレベルが向上することになると思われる。長い目で見れば、それは、結局学生の利益につながると信じている。そのため、後期の授業でも引き続き交代授業を行なうことになった。

後期の授業では、統一授業に慣れたこともあって、打合せ等の機会は少なくなったが、それが重要な役割を果たしていることに変わりはない。

## VI. 成績評価の統一

統一授業の3番目の項目である成績評価の統一は、統一授業の締めくくりとなる重要な項目である。これが重要なことは以前からわかっていたし、作業手順としては簡単なことだとわかっていたのであるが、学習過程の統一化が軌道に乗ったと確信できるまでと先延ばしにしてきた。協力してもらっている非常勤の先生方の自由裁量の余地を一挙に縮めてしまうのではないかと懸念したことも一因であった。

しかし、交代授業をきっかけに担当教員間の結束が十分に高まったと判断されたので、思い切ってこの課題にも踏み切ることにした。

統一評価の課題には、期末試験の統一と成績評価基準の統一の2つの側面がある。統一試験についてはほとんど問題がなかった。期末試験として2種類の試験を行った。1つは翻訳朗読試験で、試験範囲内の本文の日本語訳を見ながら、韓国語に翻訳して朗読するという形式の試験である。一斉に行うことができないため非常に時間がかかるので、29回目と30回目の授業をこの試験に宛てた。人数が少ないクラスでは29回目1回だけの実施となった。

もう1つの試験は31回目の試験日に行なう筆記試験である。試験問題の原案を統括責任者の稿者が作成し、担当者全員で検討して最終問題を作った。授業時間帯が完全に重なっているので、完全な統一試験問題で済ませることができた。

どちらの試験に関しても、採点基準は、できるだけ詳細に決めておいた。

しかし成績評価基準の統一に関しては、いろいろと問題が生じた。シラバスに述べてある評価基準に従って採点した素点の記録を持ち寄って協議をしたが、特に、合否の判定に関しては、シ



ピアな議論にもなった。その際には、統一授業の一環として成績評価を位置付ける場合には、どのクラスを履修したかに関係なく、評価はできる限り公平に行われなければならないという稿者の考えを力説して、なんとか適切と思われる合意に達することができた。

以上、韓国語の統一授業は、2019年度前期で一応体制が整った。しかし、まだ枠組みができただけで、その中身については今後検討しなければならない課題が山積みである。今後も試行錯誤を続けて統一授業の充実に向かって努力を続けていかなければならないと思う。

## Ⅶ. 統一授業の理念

統一授業の理念は何であるか、何のために統一授業を行うのかという問いに対して的確にこたえることは難しい。おそらくその答えは1つではないだろう。稿者の考えは、統一授業は学生本位のものであるべきであるということである。つまり、「履修者には、明確な到達目標を明示され、その目標に向けての効果的な学習機会（授業）を提供され、自己の努力結果に対して正当な評価を受ける権利があり、統一授業はその権利を、どの授業を受けるかに関係なく、公平に満足させることができるものでなければならない」ということである。

勿論これは私自身の考え方で、このように考えなければならないというわけではない。これは、非常に厳しい到達目標で、もっと緩いところに目標を置くこともできるだろう。統一教科書を決めるだけでも統一授業になる。実際、2018年度まで本学で行っていた「統一授業」はそのようなものであった。本格的な統一授業に踏み切れなかったのは、上に述べた統一授業の理念を本格的に掲げる段階ではないと考えていたためである。

ところが、2019年度になって、交代授業を行ったことをきっかけに、成り行きで統一授業の体制が整うことになった。多少、見切り発車的な面があるが、いったん枠組みを整えてしまった以上、統一授業の理念に向かって進んでいくしかない。厳しい目標を掲げると、仕事量は格段に増えるし、ストレスも倍増する。専任教員である稿者の場合は、自分のやりたいことをやるため、負担増やストレスは覚悟の上であるが、協力してもらっている非常勤の先生方にも、時間的にも精神的にも多大な負担をおかけした。割に合わない苦勞をさせられると思われたかもしれない。

しかし、韓国語の統一授業で得たものは、負担とストレスだけではない。ストレスを解消するための方策も得た。打ち合わせをするたびに会食する機会も増え、共に週末を楽しむようになった。このような関係が生じた後で、本格的な統一授業に踏み切ろうと考えていたのであるが、逆の順序で事態が推移したようである。本当に幸運であったと思う。負担の大きい仕事をお願いしているのにこのように接してもらえらるスタッフに恵まれたことを感謝し、改めてスタッフの先生方にお礼を申し上げたい。

コロナ禍の現在、統一授業がどうなっているかについて述べたい。今年度は年度初めからコロナのため授業体制が大きな影響を受けてきた。年度初めからオンラインで授業をしなければならないことになったとき、統一授業が維持できるか大いに懸念された。しかし、半年以上が経過した現在、統一授業の実施にはほとんど影響がなかった。学生との距離ができ、期末試験の実施などに多少の不都合が生じたが、通常の授業と同様の到達目標は達成できた、学生の到達度も例年と遜色なかった。

※本稿は2019年8月22日(木)に開催された令和元年度鹿児島大学共通教育センター第1回教員ワークショップで口頭発表した内容を加筆・訂正したものである。

## A Report on the Unified Curriculum for Teaching the Korean Language in Kagoshima University

JEONG Jisuk

**Keywords:** teaching of the Korean language, a unified curriculum for teaching a foreign language

This reports on the unified curriculum for teaching the Korean language in Kagoshima University, which began partially in the academic year 2017 and was expanded to its full extent in academic year 2019.

A unified curriculum for teaching a foreign language can be divided into and examined with respect to three main aspects:

- 1 Unified Target
- 2 Unified Content
- 3 Unified Assessment (of Student's Efforts)

Each of these aspects has its own problems and difficulties. Our unified curriculum for teaching the Korean language is a solution to these problems and difficulties.

To maintain a unified curriculum, we should be ready to bear a heavy burden both temporally and mentally. However, it can bring beneficial by-products such as the improvement of our teaching skills or solidarity among the teaching staff, which can, in turn, become a benefit to our students. It can also be a good manifestation of our responsibility to our students as teachers of foreign languages.